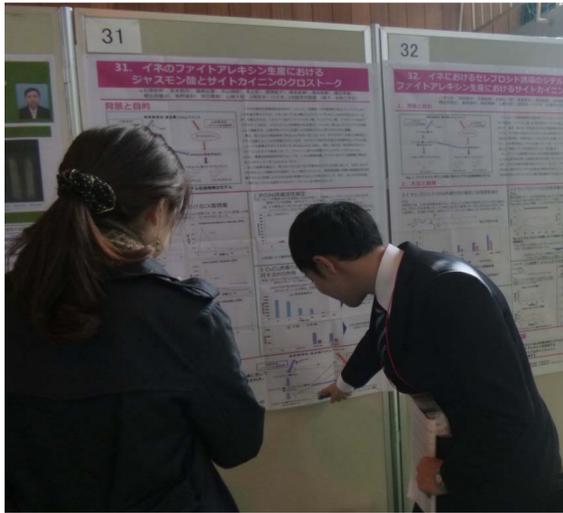


バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	植物化学調節学会 第51回大会（高知大学物部キャンパス）
演題名	イネのファイトアレキシン生産におけるジャスモン酸とサイトカイニンのクロストーク
発表者	○ <u>※石塚祐伸</u> 、 <u>宮本皓司</u> 、 <u>※篠崎征喜</u> 、 <u>※平山琢郎</u> 、 <u>※本江匡</u> 、 <u>酒沢智子</u> 、 <u>湯本絵美</u> 、 <u>柴田恭美</u> 、 <u>横田孝雄</u> 、 <u>朝比奈雅志</u> 、 <u>岡田憲典</u> 、 <u>山根久和</u> （植物化学研究室）
内容	<p>植物の病害抵抗性反応として抗菌性二次代謝物質であるファイトアレキシンの生産が挙げられる。イネにおけるファイトアレキシンの生産には植物ホルモンであるジャスモン酸がシグナル分子として重要な役割を果たしていると考えられてきた。しかし、ジャスモン酸非要求的なシグナル伝達経路の存在が最近になって明らかになった。本研究では、植物ホルモンであるサイトカイニンがジャスモン酸非要求的なシグナル伝達経路においてシグナル因子として機能する可能性を示すとともに、イネの病害抵抗性反応におけるジャスモン酸とサイトカイニンのクロストークについても報告した。</p> <p>本研究はバイオサイエンス学科植物化学研究室の大学院生が修士論文研究の一環として行ったものである。なお、本発表は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」による支援を受けて行った。</p>
関連画像	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>写真：発表を行う石塚祐伸君（植物化学研究室M1）</p>